

Preview

兵庫県政150周年記念事業 開館5周年記念展

横尾忠則の冥土旅行

2018年2月24日(土)ー5月6日(日)

休館日:月曜日[ただし、4月30日(月・振休)は開館、5月1日(火)は休館]

観覧料

一般700(550)円、大学生550(400)円、70歳以上350(250)円、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体および前売料金

※障がいのある方(70歳以上除く)は各観覧料金の半額、その介護の方(1名)は無料

Information 関連イベント

加橋かつみライブ

出演:加橋かつみ(Vo., G.)、珠希真利(Vc.)

日時:4月14日(土)16:00-

会場:当館オープンスタジオ 参加費:無料、ただし要観覧チケット

1960年代のグループ・サウンズ・ブームを牽引した「ザ・タイガース」の元メンバー、加橋かつみによるプレミアム・ライブ

キュレーターズ・トーク

講師:当館学芸員

日時:3月10日(土)、4月7日(土)、4月21日(土) いずれも14:00-14:45

会場:当館オープンスタジオ 参加費:無料、ただし要観覧チケット

担当学芸員が観覧会の見どころを分かりやすく解説します。

ワークショップ

「〇〇の女ーヨコオ流・仮面変身術」

講師:当館スタッフ

日時:3月24日(土)13:30-16:00 会場:当館オープンスタジオ

対象:どなたでも(性別は問いません) 定員:20名 参加費:無料(要申込)

横尾さんの作品にちなんで仮面をつくり、「〇〇の女」に変身して肖像写真を撮影します。

各イベントの詳細は当館HPなどをご確認ください

兵庫県立美術館 | 観覧会スケジュール

特別展 「小磯良平と吉原治良」展

2018年3月24日(土)ー5月27日(日)

県美プレミアム

特集「Back to 1918:10年ひとむかしと人は言う」

2018年3月17日(土)ー6月24日(日)

※兵庫県立美術館の特別展又はコレクション展の有料チケット半券ご提示で、当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどをご確認ください)

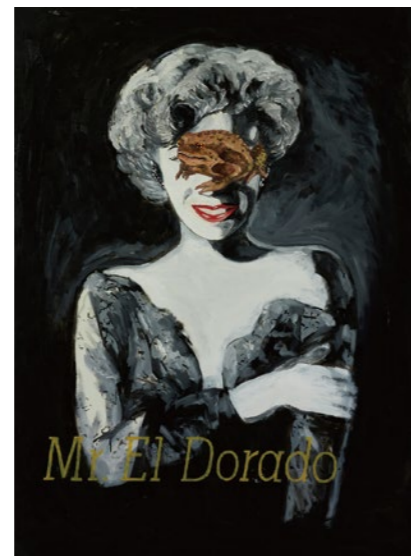
編集後記

残念ながら工事休館中でしたが、去る11月3日に5周年となる開館記念日を迎えました。

6年目を迎えた当館の今後の活動もじっくり紙面でご紹介していきますので、どうぞお楽しみに。(多胡)

「ひとは死んだらどこへいくのか?」私たちは遥か昔から「死」の向こう側にある世界にまなざしを向け、死後のゆくえについて様々な想像をめぐらせてきました。「死」を自らの重要なテーマと捉え、様々な死のイメージを作品に投影してきた横尾さんにとっても、死後の世界のあり方は重要な関心事の一つです。本展ではそうした横尾さんの作品を通じて、死後の世界への冒険旅行へと出かけます。

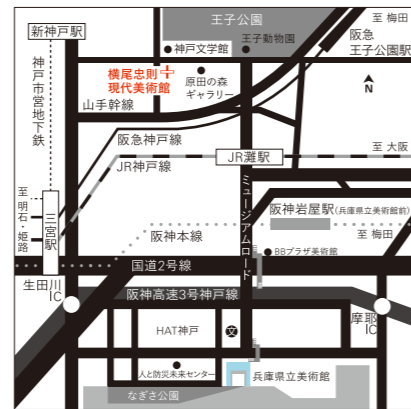
初公開作品を含む女性のポートレート・シリーズは、2017年から今年にかけて制作された最新作。顔の一部を覆い隠された女性たちは、観る者に不可解でミステリアスな印象を与えます。本展ではさらに、ダンテの『神曲』のイメージが反映された1970年代のヌード写真をはじめ、異界を暗示する「赤」の絵画を一堂に会し、鑑賞者を彼岸への旅へと誘います。



つねに死後の世界を想像し、「死の側から生を見る」ことで自らの生き方を見つめてきた横尾さんのまなざしを、作品世界を通して追体験する場となれば幸いです。

林 優 | 本館学芸員

【ヒキガエルと女】2017年 | 作家蔵



Y+T MOCA

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30
Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-806-3888
www.ytmoca.jp

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.17

2018年2月22日発行

編集・発行:横尾忠則現代美術館

印刷:岡村印刷工業株式会社

the Y+T Times

横尾忠則現代美術館ニュース

Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art *NEWS LETTER*



Special Report 横尾忠則 HANGA JUNGLE展

Event Report

- 01 大野慶人パフォーマンス&レクチャー
- 02 ワークショップ「観光ペナントをつくろう」

Column

- 作品・資料の保存と活用4
- 一虫・カビに対する措置一

Editors' Choice

アーカイブルーム

Preview

横尾忠則の冥土旅行

Information

次回展関連イベント

兵庫県立美術館 観覧会スケジュール

Topics

- 01 最近の横尾さん
- 02 台風被害による臨時休館と改修工事について
- 03 写真家の細江英公さんが来館されました!

17

2018.2.22



Special Report 横尾忠則 HANGA JUNGLE 展

2017.9.9 SAT. - 2019.2.4 SUN.

・9月26日(火)―11月17日(金)は台風被害による改修工事のため臨時休館
 ・当初は12月24日(日)までの予定でしたが、翌年2月4日(日)まで
 会期延長されました



「横尾忠則 HANGA JUNGLE」展は、これまで横尾さんが制作した版画作品をできる限りぜんぶ展示する、という意欲的な内容で、約3年前から町田市立国際版画美術館と共同で準備してきました。展覧会は、今年の4月にまず町田市立国際版画美術館で立ち上がりました。約250点もの作品がところせましと並ぶ会場はまさに圧巻で、評判が評判を呼び、都心から少し距離があるにも関わらず、たいへん多くの方が会場に足を運びました。いよいよ当館に巡回を受け入れるに際して、特に頭を悩ませたのがキャパシティの問題です。町田の展示室は当館の約1.5倍の広さがありますが、それでもまさに「てんこ盛り」状態でした。当館での一展覧会あたりの平均出品数は約80点なので、(もちろん作品のサイズに応じて変動しますが)250点はどう考えても無茶な点数です。出品点数をかなり絞り込む必要があると思われました。

しかし実際に考えはじめると、削る作品を選ぶのが非常に難しい。図面とらめっこしながらウンウン唸っていたのですが、改めて、展覧会タイトルが「版画ジャングル」だということを思い出しました。ジャングルなんだから、ギュウギュウ詰めになっても、個々の作品が少々みづらくても、今回なら許されるのではないかと、思ったのです。そういえば、町田展のポスターはジャングルの王者ターザンの雄叫びをモチーフにした《ターザンがやってくる》(1974)を下敷きにしたものでした。もちろん横尾さんのデザインで、非常にカッコいいポスターです(このポスターの魅力ゆえに、会場に足を運ばれた方も多かったのではないかと思います)。そこで展覧会を象徴するものとして、《ターザンがやってくる》を展示の導入部分に配置することにしました。さらに、観客をジャングルの世界に誘うべく、雄叫びのサウンド

70年代を代表する大作《Red Wonderland》と《Blue Wonderland》



ターザンの「雄叫び」が皆さまをジャングルの世界へと誘います

を鳴らしてはどうだろう、とひらめきました。横尾さんが子ども時代に初めて見た映画「ターザンの逆襲」(1936年公開なので、既に著作権が切れています)から、例の「ア〜アア〜」という音声データを3種類抽出し、ランダムに再生される仕掛けで、まるで作品そのものが叫んでいるような演出です。

2Fから始まった展覧会はさらに3Fへと続きます。3F展示室の入口には、《ターザンがやってくる》を2004年にセルフカバーした作品《Tarzan》4点組を展示しました。オリジナルの《ターザンがやってくる》よりもかなり小ぶりで、色合いも淡く可愛い作品です。ここでは音声データを加工し、1オクターブ高い声で再生されるようにしました。いわば小ターザン(?)の雄叫びです。普通的美術展だと怒られそうですが、こういった悪ふざけスレスレの試みに違和感を感じないのが、横尾忠則現代美術館の面白いところかもしれません。実際に展示してみると、版画集の表紙など資料的なもの以外は、町田で展示されていたほとんどすべての作品をなんとか並べることができました。2段掛け、3段掛けを多用しましたが、額縁のサイズに統一性があるせいか、意外にまとまっています。破綻寸前のジャングルのカオスを想像

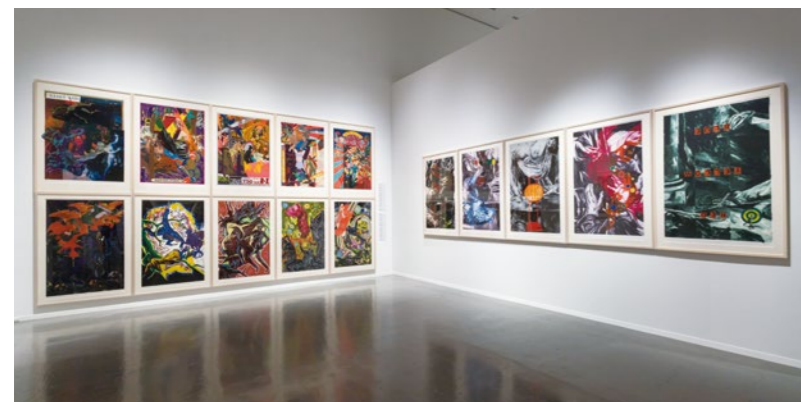
していたのですが、むしろスタイリッシュな印象です。とはいえ、横尾さんの強烈なビジュアルがさらに高密度に濃縮された会場はものすごくパワフルです。開会式に訪れた横尾さんにも気に入っていただき(なんだ、もっと並ぶんじゃないの、といわれてしまいました)、ほっと胸を撫で下ろしました。さてこの展覧会、(トピックスで詳述しますが)台風18号の直撃で、オープン後間もなく臨時休館の憂き目に遭いました。作品は一時的に収蔵庫に避難させ、改修工事の後全くもど通りに展示し直してぶじ再オープンし、会期も2月4日まで延長となりました。同じ展覧会を2回展示するのは貴重な経験ではありましたが、できればあまり体験したくないものです。

本展でも最大級の作品《Major Arcana》。21枚の短冊状の版画が組み合わさっています

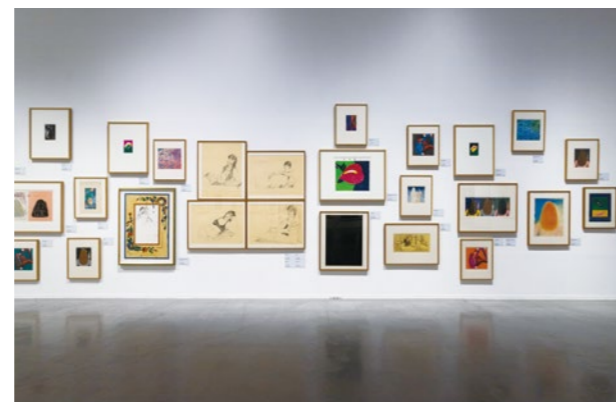


山本淳夫 | 本館学芸課長

内覧会での一コマ。とても81歳にはみえません



画家としても油が乗ってきた頃の作品。密度が半端ないです



画家宣言前後の作品。絵画のための素描に近い印象です



従来ポスターに分類されていた初期作品。版画との違いやいかに?



本展のための新作版画もお披露目されています

EVENT REPORT 01

大野慶人 パフォーマンス&レクチャー

2017年11月19日(日)14:00—|当館オープンスタジオ(1F)
出演:大野慶人、聞き手:岡登志子(アンサンブル・ゾネ)
企画協力:NPO法人ダンスアーカイヴ構想、協力:アンサンブル・ゾネ



「大野一雄です…」父をかたどったパペットとともに踊る大野さん

「舞踏」のパイオニアのひとりとして、父大野一雄さんや土方巽さんとともに日本独自の身体表現の可能性を切り開いてきた大野慶人さんが、遂に横尾忠則現代美術館に登場です。デモンストレーションも交えながら、自らの歩みを踏まえて「舞踏とは何か」について語りました。筆者は「舞踏」にも「ダンス」にもさほど造詣が深い訳ではないのですが、まさかこんなに感動するとは… 自分でもびっくりしました。その場におられるだけで凛とした存在感を放つ大野さん。「父は戦争から帰ってきたとき、『命を大切に踊りをやりたい』と思ったのです」「100歳近くの父は、車椅子が必要な状態でしたが、椅子に座ったまま踊りました。自分は父を支えながら、『これは命なんだ』と思っていました」…大野さんがスッと腕を伸ばし、踊り始めた途端、その場の空気が一変するのを誰もが感じたとします。さらにアンコールに呼ばれて、メキシコの女性がつくってくれたという、父大野一雄をかたどったパペットと共に踊る姿には、思わず目頭が熱くなりました。芸術の究極の姿は、技術的な問題を超越し、存在がダイレクトに訴えかけてくる。そんなことを実感したひと時でした。



紙製のかぶり物を身につけて踊る大野さん。「日本人にとって、紙は神なんです」

山本淳夫 | 本館学芸課長

EVENT REPORT 02

ワークショップ「観光ペナントをつくろう」

2017年8月4日(金)13:30—16:00 | 当館展示室、オープンスタジオ(1F)

「観光ペナント」とは、三角形の旗に観光地の名前とイラストが施された、少し懐かしいお土産品。ヨコオ・ワールド・ツアー展では、横尾さんが旅で出会った様々なものの断片が渾然となったエネルギッシュな作品が印象的でしたが、今回はそれらの作品にちなんで、「2つの場所を組み合わせた架空の観光地」のペナントを作りました。一つは、参加者それぞれの思い出の場所、もう一つはカードで引いた横尾さん(もしくは横尾さんの作品)が旅した場所。カードに書かれているのは「ハイファ」「サルバドル」などほとんどの方になじみのない地名ばかり。前者は記憶をたどりながら、後者は音の響きからイメージを膨らませ、その場所の気候や名物、有名なものを思い浮かべておきます。



ハワイ(思い出の場所)とリュブリャナ(横尾さんの作品が旅した場所)を組み合わせた「RYUBUHAWA」ペナント。水が豊かで虫などの生き物がたくさんいるそうです

ここから、いざペナント作りへ。ペナント型の台紙に、廃品チラシやポスター、ひもやテープなどでコラージュしたり、絵を描いていきます。2つの場所の特徴を書き出すときは悩んでいた参加者も、いざ制作し始めると考えるよりも先に手が動いていくといった模様。横尾さんに倣ったコラージュは重ねれば重ねるほど面白く、手が止まらない…ということで、1時間半の制作時間はあっという間に過ぎ、最後に架空の観光地の名前をつけてペナントが完成しました。

多胡真佐子 | 本館学芸員補助



印刷物などの素材から自分のイメージとシンクロするものを探して切ったり貼ったり。素材から新たにインスピレーションを得たという方も多かったです

Topics 01 最近の横尾さん

出版ラッシュ!

『創造&老年』(SBクリエイティブ刊)は、横尾さんと、横尾さんより年長の現役クリエイター9名(全員80歳以上!)との対談集。瀬戸内寂聴、磯崎新、野見山暁治、細江英公、金子兜太、李禹煥、佐藤愛子、山田洋次、一柳慧という豪華な顔ぶれです。飾らない言葉の中に、生きることに創造することのヒントが詰まっています。『アイデア』380号(誠文堂新光社刊)は新作ポスター特集。2010年以降のポスター約70点に加え、デュラン・デュランのメンバー、ニック・ローズの寄稿等、テキストも充実しています。



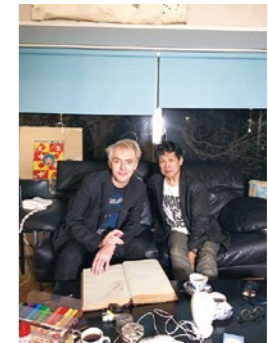
『アイデア』380号と『創造&老年』

デュラン・デュランのポスター



新作ポスター《ロンドンより遠く離れて》2017年

ジョン・レノンやサンタナ、ミック・ジャガー等、海外のミュージシャンとの交流を紹介した「ヨコオ・ワールド・ツアー」展の開催中、横尾さんが、イギリスのロック・バンド「デュラン・デュラン」の来日公演グッズのポスターをデザインしたというニュースが飛び込んできました。2001年のコラージュ作品《Classic Five Senses》をベースに何層にもイメージが重ねられています。地球外を思わせる風景や画面左の官能的な女性の姿が、バンド名の由来となったSF映画「バーベラ」の世界観に繋がります。横尾さんのファンだというメンバーのニック・ローズとジョン・テイラーは、ポスターのお礼を兼ねてアトリエを訪問しました。



ニック・ローズと。制作中の作品に興味津々だったと提供:ヨコオズ・サーカス

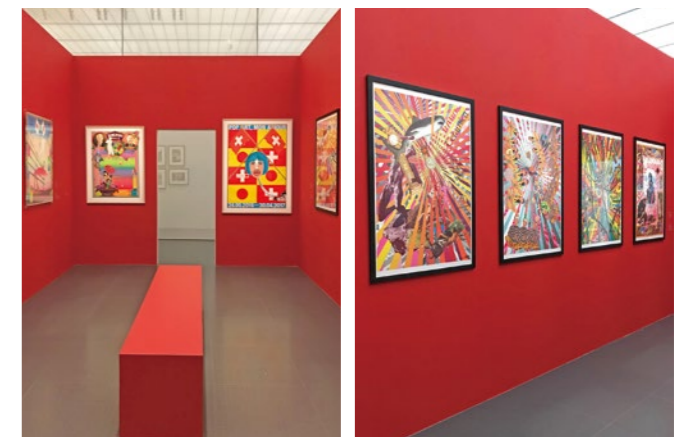


ジョン・テイラーと。横尾さんが着用しているのは自作のポスターを印刷したTシャツ提供:ヨコオズ・サーカス

ポンピドゥ・センター・メッスでの展覧会

フランスのロレーヌ地方にあるポンピドゥ・センター・メッスでは、日本の芸術文化に焦点をあてた企画展2本が同時開催され、それぞれに横尾さんの作品が出品されています。建築展「ジャパナーネス Japan-ness 1945年以降の日本の建築と都市計画」では、横尾さんが造形ディレクターをつとめた大阪の万国博覧会のパビリオン「せんい館」のポスターが、美術展「ジャパノラマ Japanorama 1970年以降の新しい日本のアート」では、初期の絵画作品《花嫁》やグラフィック作品など12点が展示されました。「ジャパノラマ」展は2018年3月5日まで開催しています。

平林 恵 | 本館学芸員



美術展「ジャパノラマ Japanorama 1970年以降の新しい日本のアート」展示風景提供:ヨコオズ・サーカス

Topics 02 台風被害による臨時休館と改修工事について

9月26日(火)ー11月17日(金)



隣接する原田の森ギャラリーとの隙間に設けられた足場



壁外に排水するため、新たに壁に穴をあけています

で耐久限度を超えてしまったのか、内壁と外壁のあいだで雨水管が破損している可能性が浮上しました。そこでエクspansion・ジョイントをリニューアルするとともに、建物内に一切雨水を入れないように屋上の取水口をすべて塞ぎ、壁外に雨水管を新設することとなりました。

部材調達が難航し、また台風21号、22号のため工事が中断しましたが、なんとか11月18日には再オープンすることができました。この間多くの方々にご迷惑をおかけし、またご協力をいただきました。この場を借りて、改めてお詫びとお礼を申し上げます。

山本淳夫 | 本館学芸課長

Topics 03 写真家の細江英公さんが来館されました!



当館の撮影スポット「目玉廊下」で快く記念撮影に応じてくださいました(細江さんにカメラを向けるのはたいへん緊張しました)

去る10月27日(金)、写真家の細江英公さんがご来館されました。前記したとおり、当館はあいにく臨時休館中でしたが「自分も高齢(84歳)なので、いつ来られるか分からない。大阪のギャラリーでの個展開催にあわせて、どうしても横尾さんの美術館をみておきたい」との強いご希望でした。本来なら「横尾忠則 HANGA JUNGLE」展が開催中で、細江さんの写真を用いた《土方巽と日本人》(2007)、《胡蝶の夢(大野一雄)》(2007)などの版画もご覧いただけるはずだったのですが、残念ながら全作品を収蔵庫で保管している状態です。あまりにも申し訳ないので、特別にアーカイブルームで写真集『新輯薔薇刑』をご覧いただきました。三島由紀夫を被写体とした『薔薇刑』は細江さんの代表作のひとつで、これまで4つの異なるバージョンが出版されています。『新輯薔薇刑』(1971)は、そのうちの2番目にあたるもので、横尾さんの大胆なブックデザインで知られています。

写真集が美術品として扱われていることに感銘された細江さんは、「横尾さんの強烈なデザインに写真が負けてしまうと、なかには嫌う写真家もいる。ぼくはこうした斬新さは大歓迎だ。写真とデザインが一体になって、1+1が2じゃなくて、何倍にもなることに意味があるんだ」と熱く語られました。

[追記]来館された一週間後の11月3日(文化の日)に細江さんの旭日重光章受章が発表されました。おめでとうございます!

山本淳夫 | 本館学芸課長

Column 作品・資料の保存と活用4 —虫・カビに対する措置—

美術館では様々な危険から作品や資料を守っています。特に、外から運び込まれるものに対してはより注意が必要です。

まず、箱や内容物に虫・カビ・塵埃等が付着していないかをチェックします。そのような有害要因を付けたまま収蔵庫や展示室等に持ち込んでしまうと、作品にも館内環境にも悪影響があるため、必要な場合は殺菌・殺虫措置を行います。

今回の資料は、表面に動物の毛と小さな虫が付着していました。衣類など虫にとってはエサになるような素材が多かったため、まず動物の毛を小型の掃除機で吸引しました。虫に関しては、殺虫剤ではなく「脱酸素剤」という薬剤を用いた「低酸素濃度処理」を行いました。

「低酸素濃度処理」とは、密閉された空間へ作品や資料を入れ、中の酸素を抜く事によって虫を窒息させる方法です。

殺虫作業を行う前には、その作品や資料がどんな素材でできているのかをまず確認します。そして、紙、金属、木材、あるいは布など、それぞれの素材の特徴に合った、より効果的で人体にも安全な方法を考えます。「脱酸素剤」には様々なタイプがありますが、今回はなるべく資料への負荷が少ないものを選びました。

もちろんこのような殺菌・殺虫措置が作品や資料へ悪影響を及ぼす可能性もゼロではありません。あえて措置を行わない方が作品にとってベターな場合もあります。どの方法がより作品と美術館の安全を保てるのか、事前によく調査し適切に判断することも大事な仕事です。



袋状にした特殊なフィルムの中に脱酸素剤と資料を入れ、熱したクリップでフィルムを溶着しながら密閉空間を作ります

津崎みぎは | 本館学芸員補助

Editors' Choice アーカイブルーム



『週刊プレイボーイ』は当時の若者文化を知ることできる資料でもあります



《うろつき夜太I》1993年 | シルクスクリーン・紙
1973年の『週刊プレイボーイ』連載時の原画より1993年に版画化した作品

「うろつき夜太」は、1973年に雑誌『週刊プレイボーイ』(集英社)で連載された、柴田錬三郎さんの時代小説です。挿絵を担当した横尾さんと柴田さんは約1年間ホテルに泊まり込み、3食共にして交流を深めながら制作を進めました。横尾さんにとって初めての時代小説の仕事で、毎週総カラー6頁、田村亮氏ら本物の俳優にモデルをもらうという豪華な連載です。連載終了後には、豪華本『絵草紙 うろつき夜太』(1975、集英社)が発行されます。

1992年発行の文庫版『絵草紙 うろつき夜太』(集英社文庫)は、作者は横尾さんのみで柴田錬三郎・原案となっており、雑誌連載の挿絵頁を中心に制作に使用した写真などが挿入、再構成されたビジュアルブックです。そして、2013年には豪華本の復刻『復刻版 絵草紙「うろつき夜太」』(国書刊行会)が発刊。当時の原画が残っていないため、色調は何度も横尾さんに確認してもらって調整し、さらに当時は叶えられなかった横尾さんの要望も実現、ポスターと小冊子の付録もついて、もはや新たな作品となりました。

版画作品にもなった「うろつき夜太」。『週刊プレイボーイ』での連載、豪華本・文庫版・復刻版の各書籍と、多様な展開をしています。

奥野雅子 | 本館学芸員補助